

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500194		
法人名	(株)サンシャインライフ		
事業所名	サンシャインプレミアム中津川グループホーム		
所在地	岐阜県中津川市駒場1666-3965		
自己評価作成日	令和7年9月3日	評価結果市町村受理日	令和7年11月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2191500194-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和7年9月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑と陽光に恵まれた高台にグループホームが建っています。グループホームということもありご自宅と同様に過ごして頂けるよう、可能な範囲で掃除・洗濯干し・畳み等をして頂き、生活レクに取り組んでいます。またカラオケ・体操・ゲーム等にて、体力低下防止に努め、楽しみも取り入れています。食事は開放的なフロアで摂られ、お部屋にいる時間をなるべく少なく、他の方やスタッフとの関りを多く取れる様に努めております。またご家族様と連絡を密に取りご協力の元、面会・外出・外泊の機会も積極的に作る様に取り組み、季節に応じたレクリエーション等ご満足頂ける様に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

室内は木材や自然素材がふんだんに使用され、細部にこだわったデザインで利用者が居心地よく過ごすことができるよう工夫されている。全室床暖房仕様で冬は暖かい。居室には掃き出し窓があり、家族は各居室のテラスから入室して、面会ができるようになっている。協力医とは24時間の連携体制があり、職員として看護師の配置がある。利用者の状態変化をすぐに看護師に相談ができ、職員の安心感にも繋がっている。利用者から買い物などの要望がある際には、できるだけ本人の思いに沿って希望を叶える支援に努めている。調理専門職員による手作りの食事は、利用者から喜ばれており、笑顔や生き生きとした表情に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の全体会議の際には、全員で事業所理念を唱和し、理念を共有し実践しています。	玄関に理念を掲示し、常に職員が確認できるようにしている。毎月の全体会議においても、理念を唱和することで、「人の尊厳を大切に介護」を意識し合い、利用者の立場に立ったケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には参加は出来ていないが協力できる事を行っています。参加できる行事がないか運営推進会議の折に相談しています。	技能実習生の住居探しを区長に相談している。一部の利用者が敬老会に参加したり、散歩の時には地域住民と挨拶を交わすなどで交流している。小中学生の職場体験や、高校生のインターンシップの受け入れ体制があり、希望者を募っている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設運営者、ならびに地域の皆様に会議に参加して頂き、施設内での生活状況やサービス内容を報告しご意見を頂いています。	隔月開催の運営推進会議では、出席者に事業所の現状を報告している。消防署長からは、消防事案の説明、区長からは行事等の案内などがあり、活発な意見交換を行っている。出席者からの意見をサービス向上に活かしている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂き、ご意見を頂いています。また電話やメールなどで相談させて頂いています。	介護相談員が隔月に来訪し、利用者から意見を聞き、その報告を支援に活かしている。行政から研修案内メールが届き、参加している。介護報酬についての疑問点を電話で聞くなど、日常的に連絡を取り合いながら、協力関係を築いている。災害時に発電機を借りることができるか等、問い合わせている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議やスタッフミーティング等で話し合いサービスの適正化に努めています。	身体拘束等適正化のための指針を整備し、全体会議で話し合っている。やむを得ず拘束が必要な場合は利用者家族に説明し、同意を得ている。身体拘束経過記録に記入し、拘束が必要か検討を重ね、できるだけ短期間、短時間になるよう取り組んでいる。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回以上勉強会を行い、職員が周知、理解出来る様啓発しています。	虐待防止に関する事項を運営規定に明記し、指針も整備している。全体会議で勉強会を行い、虐待防止に努めている。事故報告については、詳細な記録を残し、全体会議やミーティングで話し合っている。運営推進会議でも報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後の課題として学びの機会を持つ必要があると思います。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	マニュアルで説明を行い、ご理解頂いています。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やメールなどでご家族様のご意見やご要望は、聞き取り反映に努めています。今後書面にてアンケートを実施する事を検討しています。	家族には、LINEを活用して利用者の写真や様子を隔月に配信し報告しており、その時に意見や要望も聞いている。面会時や電話でも、意見等を聞き取っている。食事代の値上げについては書面提示にて説明し、周知を行っている。	今回の「利用者家族等アンケート」には、感謝の言葉も多い。また、意見や希望も出ており、家族のニーズの把握にも努められたい。その対応に期待したい。
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やミーティング等で意見を聞いた後、日頃のコミュニケーションから提案をうけ、反映させています。	スタッフミーティングでは、職員の意見や要望を聞き取っている。全体会議で、職員の意見について検討し、内容について話し合っている。ミーティングで話し合ったケア方法や業務に関する意見を運営に反映させている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	年一回面談を行ない職場環境や条件の整備に努めています。有給休暇も全員取得しています。	男女別の更衣室は、畳敷きで足を伸ばして休憩することができる。職員の希望にも配慮し、産休や育休、有給休暇の取得等、働きやすい環境を整えている。技能実習生も受け入れている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修を受ける機会を持ち育成に努めています。	毎月、全体会議の中で勉強会を行っている。虐待防止の外部研修に参加した職員が、他の職員への伝達講師を担い、全職員のスキルアップに繋げている。実務者研修は法人が受講費用を援助し、その他の資格については、代表と相談しながら取得を推奨し支援している。	技能実習生の適切な指導のためにも、職員のコミュニケーション能力を高め、それぞれが利用者へのサービスを適切に支援できるよう、取り組まれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	G.H部会に参加し、情報を交換しサービスの向上に努めています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする利用者様同様の関係を良い状態に出来る様職員は常に努めています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からご本人様の希望を聞く(やりたい事、行きたい所、食べたい物など)とともに介護計画の見直しの際にはご家族様からのご意向も確認しケアに反映させています。	利用者の思いや意向は、日常生活の中で聞いている。毎月の誕生日会では、利用者に何が食べたいかを聞き、提供している。散歩や買い物の希望には、職員が一緒に出かけて、利用者の要望を叶えるように努めている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りや全体会議、ミーティングなどももちろんのこと、日々のスタッフ間でコミュニケーションを取り、本人・家族・職員と常に変化があれば話し合い、現状に適した介護計画を作成しています。	利用者と家族の思いや希望を把握し、担当職員、医師や看護師の意見を参考に、現状に即した介護計画作りに努めている。介護計画の内容は職員間で共有し、毎日のケアに活かしている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	コニカミノルタのシステムを利用しており、生活情報や気づきをリアルタイムで共有できるようにしています。また細かな気づきは個人記録を残し、情報の共有、ケアの見直しに活かしています。	毎日の個別ケアは、支給された携帯端末に入力している。個別記録はパソコンにデータとして自動転送されている。また、手書きの申し送りノートも活用し、利用者の様子をケアマネジャーが職員に聞きながら、介護計画の見直しにつなげている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人のお客様に対して一人の担当スタッフを決め、個々のニーズに対応し柔軟なサービスに取り組めるようにしております。	利用者の急な体調の変化で医療受診が必要な時や、訪問理美容を利用する際は、職員が付き添うなど、個別のニーズに対応している。利用者の知人が来訪する際には、家族へ連絡の上、対応している。	

岐阜県 サンシャインプレミアム中津川グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	イベントなど地域の方もおいで頂く機会を作りたいと思っております。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設として契約している医療機関の医師がおり、1か月に1回の定期往診を依頼しています。それ以外でも必要時は往診して頂いています。	契約時に、従前のかかりつけ医継続が可能であることを説明している。現在は、全員が協力医を選択しており毎月往診を受けている。看護師が職員として配置されており、利用者・家族の安心に繋がっている。専門医への受診は家族の送迎が基本となっている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院後・退院前に必ず病院を訪問し、病院での様子を職員と共有し情報交換に努めている。	入院時は、医療機関に利用者の状況を電話で伝えている。退院間近になると、ケアマネジャーや看護師が病院へ出向き、利用者へ直接会っている。病院の相談員や看護師から、利用者の状態を聞き、受け入れの準備をしている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に本人や家族に説明しご意向の確認をしています。体調に変化があった時には主治医と連携をより一層話し合いを重ねていきます。終末期を穏やかに迎えられる様に援助していきます。	契約時に重度化についての説明を行い、状態が変化した時は、医師が直接家族に説明をしている。看取り期に入った時は、家族の意向を再確認している。家族と利用者が一緒に過ごせる時間を持てるよう、居室に付き添いベッドを準備している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防や看護師の指導を受けています。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と消防設備会社に来ていただき、防災訓練を年2回必ず行っています。また日々のレクリエーションの中で防災訓練を行いシュミレーションをしています。	防災訓練は消防署や設備会社と共に、年2回行っている。3ヶ月に一度、レクリエーションも兼ねた抜き打ちの避難訓練を実施し、災害時に備えている。地域の避難所指定を受けており、近隣住民にも周知されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	温かく丁寧な声かけや穏やかな家庭的な雰囲気気を心がけ対応しています。	利用者が気兼ねなく何でも話せるよう、家族のような関係作りに努めている。話を聴く時は否定をすることなくその人を尊重した対応を心掛けている。入浴時の介助は同性介助を基本としている。接遇やプライバシーに関する勉強会を行い、職員の資質向上につなげている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人の希望を聞き意思決定できるよう働きかけています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いせず、穏やかにストレスなく過ごして頂ける様なケアを心がけています。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食のメニューはホワイトボードに書き、毎食スタッフが説明しています。季節を感じられるメニューの作成やお客様の食べたい物を聞き、メニューに反映させるなどの工夫をしています。	栄養バランスに配慮した三食手作りの温かい食事を提供している。栗拾いや栗の皮むき、食後の片付けや食器洗いも、利用者も手伝っている。献立の話しながら食事が楽しみとなるよう、ホワイトボードに大きな文字で、その日の献立を書いている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師・看護師と連携し、食事、水分が十分摂れるように食事量、食事形態など一人一人に合わせた食べやすいものを提供しています。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声をかけ歯磨きを行ってもらいます。必要な方はスタッフでお手伝いさせていただきます。また外部の歯科にも協力していただき、必要な方は訪問歯科診療を受けています。	毎食後、声掛けや誘導で口腔ケアを実施している。義歯洗浄は個別に対応し、保管は職員が行っている。利用者個々の契約で、歯科衛生士の訪問もある。職員は口腔ケアに関する研修も受講し、利用者の口腔内の清潔保持に努めている。	

岐阜県 サンシャインプレミアム中津川グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の間隔を把握し、声掛けをし排泄の自立に向けて支援を行っています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	男女で入浴日を分け、女性には女性スタッフが対応するようにしています。入りたくない日などには次の日や時間をずらすなどして対応しています。個浴と特浴があり、状態に合わせて浴室を分けて使用しています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべくフロアで過ごしてもらい夜間睡眠できるよう声掛けをしています。寝る時は可能な限りパジャマに着替えてもらい、昼夜の切り替えができる様働きかけています。入眠が困難な方は医師と相談し睡眠導入剤を使用する場合があります。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状に異変のある時は主治医に連絡し指示を受け、個別ファイルで薬剤情報を確認できる様にしています。また提携薬局に相談、指導を受け適切な薬剤の使用に努めています。	薬のセットは薬剤師が行い、鍵が掛かるキャビネットで保管している。服薬前及び服薬直前の声出しや指さしのダブルチェックで、誤薬を防いでいる。薬の変更時は看護師が口頭で説明し、往診記録にて職員に伝えている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の家事を出来る時に出来る方に行ってもらったり、得意な事をやっていただいたりし、気分転換できる様に日々支援しています。	ぬりえや作品作りなど、手先を使うことや体操で身体を動かしたり、脳トレやトランプゲームを行っている。楽しみながら機能低下の予防に努め、洗濯物干しや洗濯物たたみ、牛乳パックで孫用のペン立てを作る人など、利用者の張り合いや楽しみを支援している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候・気温を見て散歩・日向ぼっこ等実施しています。希望があれば一緒に買い物に行く事もあります。	日頃はテラスや玄関先での日向ぼっこ、敷地内の畑で収穫作業を手伝ったり、事業所周辺を散歩している。ドライブを楽しむこともある。家族と一緒に墓参りや敬老会へ行ったり、一時外泊をする利用者もある。	

岐阜県 サンシャインプレミアム中津川グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	盗難や紛失の恐れがあり、お金はスタッフで管理しています。必要な時に欲しいものが買えるよう支援しています。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人の気持ちに添ってご家族との連絡等対応しています。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く、採光できる様設計された施設であるため明るく開放的な空間です。	オープンキッチンの広い食堂は、職員が食事を作る様子を見ることができる。調理中の匂いが漂い生活感がある。全室床暖房設備で、冬は暖かく過ごす事ができる。居室やフロアの掃除は利用者が手伝ってくれることもあり、清潔で整理整頓された居心地よい環境を維持している。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや本棚を設置し、好きな場所でくつろげるようにしています。皆さんで一つのテーブルに集まり談笑したりゲームをする様子が日々あります。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れた、家具または、昔製作した押し花、家族写真などを飾って楽しい部屋づくりをしています。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の利用者様の情態を把握し、安全を見守りながら自立への支援を心がけています。		